

全国学力・学習調査の結果概要

「平成21年度 全国学力・学習状況調査」が本年4月、全国で実施されました。この調査に基づき、子どもたちの学力と学習状況の傾向と課題の分析が行われました。

調査の概要

- 調査の名称 平成21年度 全国学力・学習状況調査
- 実施日 平成21年4月
- 実施学年 小学校6年生(10校、939人)、中学校3年生(7校、1,009人)
※私立小中学校は調査対象外です。
- 調査の内容
 - ①教科に関する調査
 - (ア)主として「知識」に関する問題 [国語A、算数・数学A]
 - (イ)主として「活用」に関する問題 [国語B、算数・数学B]
 - ②生活習慣や学習環境等に関する調査

「大きく上回っている」とは…

教科に関する調査の結果について、本文中には、「大きく上回っている」、「やや下回っている」などと表現しています。これは、左表に基づく基準で、それぞれの言い回しを用いています。たとえば、全国の正答率が80、市の正答率が84だった場合、別表に基づき、正答率差が4.0以上となり、「大きく上回っている」と表わします。

【全国・長野県平均正答率に対する比較の目安】

表 現	正答率差
大きく上回っている	4.0以上
上回っている	2.0～3.9
少し上回っている	1.0～1.9
やや上回っている	0.1～0.9
並み	0.0
やや下回っている	△0.1～△0.9
少し下回っている	△1.0～△1.9
下回っている	△2.0～△3.9
大きく下回っている	△4.0以下

平均正答率の概要

中学校

国語A (主として「知識」に関する問題)
全国(公立)より少し上回っており、長野県(公立)より、やや上回っている。

国語B (主として「活用」に関する問題)
全国(公立)および長野県(公立)より、共にやや上回っている。

数学A (主として「知識」に関する問題)
全国(公立)よりやや上回っており、長野県(公立)より少し上回っている。

数学B (主として「活用」に関する問題)
全国(公立)および長野県(公立)より、共にやや下回っている。

小学校

国語A (主として「知識」に関する問題)
全国(公立)および長野県(公立)より、共に上回っている。

国語B (主として「活用」に関する問題)
全国(公立)より少し上回っており、長野県(公立)より、やや上回っている。

算数A (主として「知識」に関する問題)
全国(公立)より少し上回っており、長野県(公立)より、やや上回っている。

算数B (主として「活用」に関する問題)
全国(公立)よりやや上回っており、長野県(公立)より、少し上回っている。

調査結果の全文は、市ホームページ、または明科総合支所内教育委員会窓口にある「平成21年度 全国学力・学習状況」でご覧いただけます。

学力

●傾向と課題

「小学校、中学校の共通点」

全般的に、国語、算数・数学ともに全国・長野県の平均を上回っています。
小学校・中学校に共通して課題と思われるのは、国語の「話すこと・聞くこと」、算数・数学の「図形」に関することであり、共に正答率が全国あるいは長野県より(あるいは両方より)下回っている傾向が読み取れます。

「小学校の傾向と課題」

国語では、言語についての知識に関してはおおむね理解していますが、話すこと・聞くことの技能面において、目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出し活用する力や、目的や意

図が伝わるように話の組み立てを工夫しながら説明する力をいっそう伸ばすことが必要といえます。

算数では、数と計算に関する問題はおおむね理解していると思われまます。一方、量と測定の問題や図形の問題に関して、基準量と比較量を基にして割合の大小を判断し、その理由を理解する力や、図形を見いだし長さを求めるために必要な情報を選択し、求め方を式に表す力やいっそう伸ばすことが必要といえます。

総じて活用する力を伸ばすことが課題と思われまます。

「中学校の傾向と課題」

国語では、漢字の読み・書きに関する問題をはじめ、言語についての知識面の問題はおおむね理解していると思われまます。一方、話すこと・聞くことの問題で、効果的なスピーチをするために話の展開を工夫する力や、読むことの問題で、本文の展開に即して内容をとらえる力をいっそう伸ばすことが課題と

思われまます。

数学では、計算問題はじめ数と式に関する問題はおおむね理解していると思われまます。事象を数学的に解釈する力、作図や証明する力、表から必要な情報を読み取る力、また、事象が成り立つ理由を筋道立てて説明する力をいっそう伸ばすことが課題と思われまます。

総じて数学的な見方や考え方を伸ばすことが課題と思われまます。

生活環境や学習状況

●傾向と課題

「小、中学校の共通点」

小・中学校ともに全国と長野県の実態に比べて良い傾向が多く見られます。中でも、読書を好む習慣化しつつあること、難しいことでも失敗を恐れず挑戦していることなどは小中共通している良い傾向といえます。しかし、留意したい傾向として、

